

# 社会について語れるようになるために

津花 知子

科目名：読解・ディスカッション：新聞記事や雑誌記事

レベル：初級1・2 / 中級3・4・5 / 上級6・7・8

履修者数：10～25名

## 1. 授業の目的

本科目の目的は3つある。第一に、社会的なトピックについて深い意見が言えるようになることである。上級レベルでは、身近で具体的なトピックだけでなく、時事問題など社会的なトピックについても意見を述べるのが求められるが、意見を述べるためには、日本語のレベル以前に、そのトピックについての知識がなければならない。そこで、まず新聞や時事問題を扱った雑誌（以下「雑誌」）の記事を読み、問題の背景や内容について十分理解した上で、ディスカッションを行う。価値観の違う他者と話し合う中で、多様な視点を獲得したり、自らの思考を深めたりすることができ、より説得力のある意見が言えるようになる。第二に、社会的なトピックについて語るために、抽象度、難易度の高い語彙や表現を習得することである。流暢に話せる学習者でも、日常会話であまり使用しないような語彙や表現を自然に習得するのは難しい。それらを習得する上でも、新聞や雑誌の記事は良い素材である。そして第三に、学生が自律的に新聞や雑誌が読めるようになることである。新聞や雑誌に興味があっても一人で読むのはハードルが高いと考えている学生が少なくない。本科目の受講を通じ、読解に自信をつけ、自ら記事を選択して読めるようになることを目指している。

## 2. 授業について

### 2-1. 授業の概要

15回ある授業の前半3分の2は担当者が選んだ記事を読む。流れとしては、次の①～⑤の通りである。①テーマに関する簡単な背景説明と話し合いを行う。②宿題として記事の大意把握とわからない語彙を調べる。③記事をクラスで精読し内容を確認する。④3～5人の小グループに分かれてディスカッションを行った後、全体で共有する。⑤宿題として自分の意見をレポートにまとめる。

以上を2コマ強かけて行っている。ディスカッションのテーマは、学生自身に考えさせたこともあったが、現在は担当者が記事に関連して3～4つ指定している。ディスカッションには日本人学生も数名、ボランティアとして参加している。これ以外に、宿題として、担当者が作成した語彙のワークシート、記事に関連した日本人へのインタビュー活動（2回程度）も課している。

後半は期末課題として、学生自身が関心のある記事を選び、記事の要約と自身の意見をレポートにまとめた上で、クラスで発表している。発表では質疑応答の他、評価シートを配布し、簡単な相互評価と自己評価を行う。最後は発表テーマの中から関心のあるテーマ

ごとにグループに分かれ、ディスカッションを行う。

## 2-2. 記事のテーマ

担当者が扱う記事のテーマは、「近年の時事問題」で「学生にとって比較的意見が言いやすいだろう」という点を考慮して選択している。例えば、最近、扱ったテーマには「選挙権の年齢引き下げ」「待機児童」「英語教育」「夫婦別姓」「さとり世代」「終活」などがある。2010年に開講してから今まで扱ったものを振り返ると「若者」「教育」「家族」「文化」「ジェンダー」といったテーマが多い。学生が期末の課題として選ぶテーマは前述のテーマに加え「政治」「経済」「ビジネス」「医療」「軍事」「国際問題」など、担当者が選択するよりもさらに幅広く興味深い。ただ、中には単なる事実の報告や紹介など、意見を深めにくいものもあり、記事の選択も重要なポイントになっている。

## 3. 学生の反応について

最後のふりかえりから出る学生のコメントで最も多いのは「いろいろな国の学生と話し合うことができてよかった」というものである。その理由には「普段、他国の留学生と話す機会はほとんどないから」「友人との雑談で、時事問題について話すことはないから」「自分とは異なる視点を得られたから」などが挙げられる。

担当者にとって意外だったのは、授業外で行う日本人へのインタビューに対する反応であった。インタビュー活動は開講当初は行っていなかったが、クラスに参加する日本人ボランティアが確保できなかつた際、その代替として始めた活動である。ちょうど現代の日本の若者についてのテーマであったので、記事に書いてあることは本当なのか確かめるといった目的もあった。この活動に対し「普段、日本人とはあまり話す機会がないが、活動のおかげで話すきっかけができてとてもよかった」という学生が少なくなかつた。このことから、上級学習者にとっても、日本人とのネットワークを作るのは容易ではないことがわかり、ボランティアが確保できた場合でも、インタビュー活動は行っている。

## 4. 今後の課題

一番の課題は良質な記事を見つけることである。学生の興味に合い、かつ、適切な長さ、難易度の記事を選べるかどうかは授業の成否を決める重要なポイントである。これまで選択した記事がクラスに合わず、読解の時間配分がうまくいかなかったり、ディスカッションが盛り上がらなかつたりしたことが何度かあった。回を重ねるごとに記事選びのコツはつかめるようになったが、今後も良い記事と出会うために日々アンテナを巡らせていきたい。もう一つは記事を読んで「日本(人)は～」と単純にステレオタイプ化してしまう学生や「母国では問題にならないことなので意見が言えない」というような学生への対応である。学生がより多様な視点から想像力を働かせ、深い意見が言えるように働きかけていきたい。

(つばな ともこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)